

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：町田サレジオ幼稚園

活動名：

SDGs 達成に向けた取組

子ども達一人ひとりの思いを世界に

解決すべき課題：世界は今、貧困・飢餓・食品ロス等、多くの課題に直面している。日本は「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、2015 年 9 月に策定された SDGs の取組を強化し、豊かで活力ある未来に向けた国創りが求められている。幼稚園では、幼稚園教育要領に掲げられている「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」との密接な繋がりを活かして、持続可能な未来の担い手の育成に向けたカリキュラムマネジメントの推進が求められている。

目標・方針：パネルや絵本を用いて世界の現状について触れ、SDGs に掲げられている 17 の目標を知り、子どもたち一人ひとりが「自分たちにできることは何か。」を考え、実践する。(写真 1) 園での食育活動を通して、食べる喜びや楽しさを感じながら食べ物への興味・関心を持ち、生きる上での食の大切さについて学ぶことを通して、世界の貧困・飢餓について考える。

活動内容：年長児 32 名を対象に具体的に以下の食育に関する取り組みを行った。

本園の畑でニンジンの栽培・収穫、個人のペットボトルで稲の栽培・収穫を行い、野菜や米ができるまでの①過程を知る。(写真 2) ②「たべもののはたらきボード」を用いて食べ物の栄養について学び、好き嫌いを減らす。(写真 3) ③世界には生きるための食べ物がなく飢えに苦しんでいる子ども達がいるという現状を知り、給食の残飯を計量・グラフ化し、食品ロス削減を意識した行動をとる。(写真 4) ④「TABLE FOR TWO」の企画する「おにぎりアクション」に参加しアフリカ・アジアの子ども達に給食を寄付する。(写真 5)

活動の成果：ニンジンの栽培・収穫を通してニンジンが苦手だった子どもも「自分で育てたから美味しかった！」と時間をかけて栽培したニンジンに愛着を持ち、苦手意識を克服するきっかけとなった。また、近くの農家へ畑や田んぼの様子を見学に行き、農家の方の思いを直接聞くことで、より食べ物への興味・関心を持つことができた。さらに給食の残飯の計量・グラフ化、おにぎりアクションへの参加を通して、一人ひとりが世界のために「自分たちにできることは何か。」を考えるきっかけをつくることができた。12 月には全園児でおかずデザートを我慢し、その分のお金を世界中の困っている人々を助けるための献金にあてる取り組みである「おにぎり献金」を行い、世界の貧しい人々について考える機会を予定している。

アピールポイント (アイデアや工夫)：

- ① 本園の特色である宗教教育を通して世界の現状について学ぶ
- ② 親しみやすいよう、保育者の手作り教材を用いて SDGs について学ぶ
- ③ 食べ物の栄養について学ぶため、食育ボードの作成・給食メニューの材料の表示を行う
- ④ 近くの農家へ見学、インタビュー・子どもたちが園で育てた稲を実際に刈り、干す体験を行う
- ⑤ 全学年で食育活動に取り組む

(年少児：カブ、年中児：大根、年長児：ニンジン、カボチャ全学年：ジャガイモ)



写真 1：SDGs について学ぶ子ども達



写真 2：ニンジンの栽培・収穫、稲の栽培・収穫、近隣の田んぼ見学・農家の方へインタビュー



写真 3：食べ物の働きについて学ぶ

写真 4：給食の残飯を計量・グラフ化

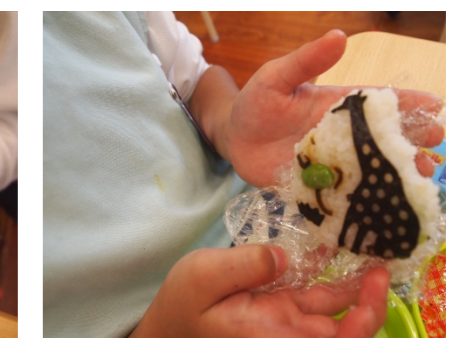
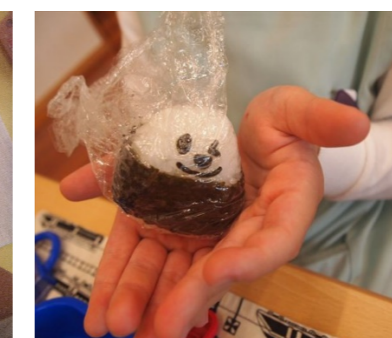


写真 5：「おにぎりアクション」に参加し、世界の貧しい子ども達のことを考えながらおにぎりをいただく